

# 社会科学習指導案（歴史的分野）

日 時 11月16日2校時  
学 級 2年A組  
授業者 辰野 安弘

## 1. 単元名 「歴史上の人物を見つめ直そう」～いろいろな見方を大切に～

### 2. 単元について

現行学習指導要領〔歴史的分野〕の「3 内容の取り扱い」の「(1)のエ 国家・社会及び文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物に対する生徒の興味・関心を育てる指導に努めるとともに、それぞれの人物が果たした役割や生き方などについて時代的背景と関連づけて考察させるようにすること」を実践しようと考え本単元を設定した。さらに、この学習を通して、本部会（価値の模索）の研究テーマ「社会的事象を多面的・多角的に考察し、判断する力を育成する指導のあり方」に迫るための授業構成を考えた。

本単元では、歴史的分野の学習を一通り終えた後の発展学習として、歴史上の人物を見つめ直す学習を行う。歴史上の人物について学習する際、ある人物に関していくつもの事実があるにもかかわらず、ある一面だけが強調され、それが人物像として定着してしまっている場合が多い。例えば、豊臣秀吉の語られ方は、時代によって大きく変化している。秀吉の死後、豊臣氏を滅ぼした徳川氏の時代になると、幕府の儒学者が徳川氏を正義とするために秀吉を悪く評価している。反対に、明治から昭和戦前にかけては、その頃の風潮から、朝鮮に軍を送った秀吉を「英雄」ととらえることもあった。このように、その時代の権力者の思惑や風潮により、人物が偏った見方で評価されることがある。それを知らずに、一つの見方・考え方から人物を判断することは、生徒が視野の狭い社会認識の仕方を身につけることにもなりかねない。また、歴史的事象に関する新たな史実の発見は絶えず行われるものであり、現時点で学んだ内容が将来変更される可能性もある。このことから、歴史的事象やそのとらえ方は普遍的なものではないので、生徒にはより確かな史実に基づいて認識しようとする態度を身につけさせることが大切である。

そこで、歴史上の人物について教科書で学習した人物像と、さまざまな資料に基づいて考察した人物像を比較する学習活動を通して、人物を多面的・多角的にとらえ、公正に判断する態度を身につけさせたい。そして、こうした態度を身につけさせることが、今後、さまざまな社会的事象を見る目として生かされると考え、本単元を設定した。

### 3. 研究との関連

歴史的分野の学習指導実践例として、昨年度は、「日露戦争」を題材として取り上げた。「主戦論」と「非戦論」という二つの立場から、それぞれの判断の基準（根拠）を討論させる学習活動を通して、研究テーマに迫ろうとした。成果として、「日露戦争」という歴史的事象をさまざまな立場や歴史的背景から深く考え、公正に判断しようとする態度を育成することができた。

本年度は、「歴史上の人物」を題材として取り上げ、

- (1) 徳川綱吉を例にあげ、一人の人物に対する見方・考え方は一つではないということを知る。  
（「価値の気づき」）
- (2) これまでの歴史学習で学んだ人物の中から、生徒一人ひとりの興味・関心に基づいて一人ずつ取り上げ、その人物像について、さまざまな資料に基づいて多面的・多角的に考察する。  
（プロセス①「自己の価値の模索」）
- (3) 生徒一人ひとりが調べまとめたものを発表し合い、自分や他者が調べた人物像から、一人の人物に対する見方・考え方は時代的背景や見方により一つではないということを確認す

る。(プロセス②「比較による価値の模索」)

(4)「自己の価値の模索」や「比較による価値の模索」が行われていく過程で、人物やものごとに対する視点を変えれば、見え方も変わり、一つの見方や考え方にしぼられるのではなく、多面的・多角的にとらえ、公正に判断しようとする姿勢が大切であることを理解する。

(プロセス③「模索による価値の再形成」)

以上のような学習過程と模索のプロセスをたどり、本部会の研究テーマに迫ろうと考えた。

※「知の構造化」部会との関連について

本単元の学習の2時間目、「歴史上の人物の調査②」は、歴史上の人物について教科書をもとに調べ直しをする学習である。これは、教科書に記述してある内容、つまり事実の構成要素を認識する段階(「知の構造化」4. 授業構成について(1) 事実的認識の第一段階)とも合致するものである。また、本時の「学習発表会」は、歴史上の人物の一般的史実に加え、その人物の意外な史実を、その人物が活動した時代的背景と関連させながら発表する(聞く)場面である。このように、時代的背景との関連から人物を説明することは、なぜ、どうなったか、それは何であるか、などの個別的な事象の習得(「知の構造化」4. 授業構成について(2) 事実的認識の第二段階)につながるものと考えられる。また本時では、歴史上の人物について、一つの見方や考え方にしぼられるのではなく、多面的・多角的にとらえ、公正に判断しようとする態度を身につけさせることを指導目標の一つとして掲げている。これは、歴史上の人物をとらえるときの見方、法則性ととらえることができる。つまり社会の見方・考え方、いわゆる法則性の認識＝一般的・説明的な認識の段階(「知の構造化」4. 授業構成について(3) 事実的認識の第三段階)ともいうことができる。そして本単元の学習を通じて、事実的認識の段階も第一段階から第二段階へ、そして第三段階へと高まっていくことと考えられる。

※「社会への関わり」部会との関連について

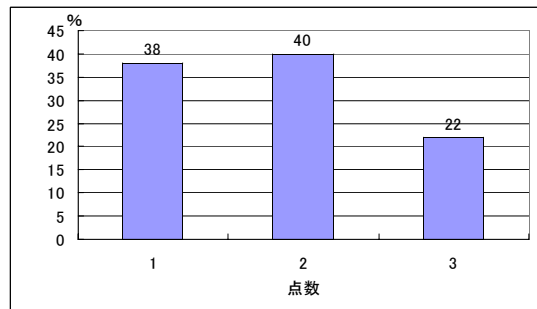
本時の学習「学習発表会」は、班内の発表会、班ごとに発表する人物選びの後、発表準備の時間を経て行われる。学習活動の流れは教師が提示をするが、本時は勿論、調査する歴史上の人物の選定、班内での発表会や質疑応答、それぞれの班ごとに発表する歴史上の人物の選出、班内での役割分担や発表準備など、ここに至るまでに、生徒が主体的に学習活動をする場面を多く設定している。これは、教師主導の講義型の授業だけではなく、生徒の主体性を育てる活動場面を作ること(「社会への関わり」4. 授業構成について【基本的コンセプト②】)に当てはまるものである。

**4. 生徒の実態** 対象：緑町中学校 第2学年生徒(男子57名、女子48名 合計105名)

本単元を実施するにあたり、生徒の実態を把握するために2年生を対象にアンケートを行った。それぞれの質問に対して、6つの選択肢の中から自分の考えに最も近いものを一つ選ばせた。6つの選択肢は、本部会が求める生徒像をレベルの高い順に、3、2、1点と点数化したものである。

### <思考をともなう発問にも答えようとする態度>

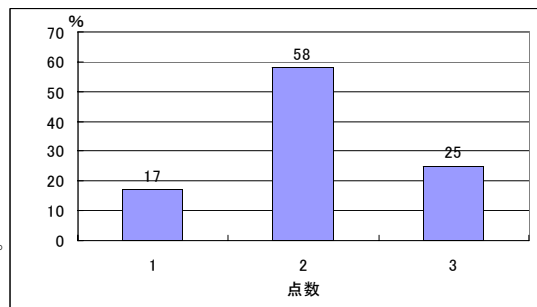
1. あなたは先生の発問に対し、どの程度答える自信がありますか。
- ア 教科書に書いてある太字の語句ならば、答えることができる。(1点)
  - イ グラフや地図等の資料を読み取り、答えることができる。(2点)
  - ウ ささまざまな資料を使って調べた結果を、答えることができる。(3点)
  - エ 出来事の原因や結果について、説明できる。(3点)
  - オ ノートに書いてある内容について、答えることができる。(2点)
  - カ 人物名や年代を教科書などを見て、答えることができる。(1点)



以上の結果から、教師の発問に対して語句や年代などを答えたり、簡単な資料の読み取りができる生徒は多いことがわかる。しかし、さまざまな資料を活用して、社会的事象の原因や結果などについて考察し、答えることができる生徒は少ないことがわかる。このことは、授業においても、教科書と資料集の活用やノート整理を十分に行う時間は設定できているが、社会的事象に対する多面的・多角的な考察や、話し合う時間を十分に設定できていないと考えられる。以上のことから、思考をともなう発問にも答えようとする態度の育成が課題である。

### <さまざまな資料から調べようとする態度>

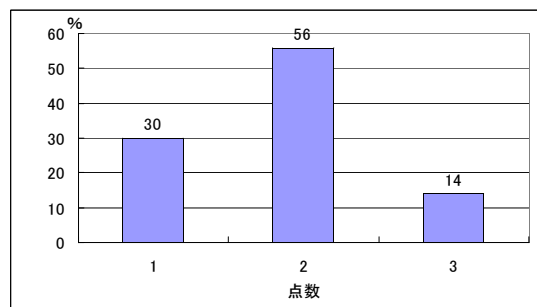
2. あなたは社会科の調べ学習をするとき、どのように進めていますか。
- ア 教科書から調べる。(1点)
  - イ 教科書だけではなく、資料集も使って調べる。(2点)
  - ウ 教科書と資料集以外に、図書館やインターネットなども利用する。(3点)
  - エ 教科書や資料集でわからないときは、友達や先生に聞く。(2点)
  - オ 教科書や資料集でわからないときは、さまざまな手段を使って調べる。(3点)
  - カ 教科書や資料集でわからないときは、あきらめる。(1点)



以上の結果から、調べ学習を行う際、約 60 % 近くの生徒が教科書だけでなく資料集も活用していることがわかる。さらに、約 25 % の生徒が図書館やインターネットなどのさまざまな手段も活用していることがわかる。教科書だけで調査したり、途中で調査をあきらめてしまう生徒は 20 % 未満と少ない。このことは、授業においても、教科書だけで調査している生徒より、教科書と資料集を活用している生徒の方が多く様子からもうかがえる。以上のことから、さまざまな資料から調べようとする態度が身につけている生徒は多いと判断できる。

### <歴史的事象を多面的・多角的に考察しようとする態度>

3. あなたは歴史の学習で大切だと思っていることは何ですか。
- ア 教科書に書かれている人物名や年代を覚えること。(1点)
  - イ 教科書に書かれている人物や出来事などについて調べる。(2点)
  - ウ 人物や出来事などについて疑問に思ったことを、さらに深く調べる。(3点)
  - エ 学んだことや調べたことをもとに、自分の考えを持つこと。(2点)
  - オ エでまとめた自分の考えをもとに、友達と意見交換を行うこと。(3点)
  - カ 学んだことや調べたことを覚えること。(1点)



以上の結果から、歴史の学習において、約 30 %の生徒が人物名、年代、調査結果を覚えることが大切であると考えている。また、約 55 %の生徒が教科書に書かれている人物や出来事について調べたり、考えたりすることが大切であると考えている。しかし、人物や出来事について疑問に思ったことをさらに深く調べたり、友達と意見交換をすることが大切であると考えている生徒は、約 15 %と少ない。そのことは、授業においても、教師の説明を聞いたり、板書をノートに写すことはしっかりと行うが、歴史的事象について深く考えたり、話し合ったりすることを苦手とする生徒が多いことにも現れている。以上のことから、歴史的事象を多面的・多角的に考察しようとする態度の育成が課題である。

質問 1 の結果より、本単元では、「歴史上の人物」について、さまざまな資料から多面的・多角的に考察する活動に加え、グループで話し合う機会を意図的に多く取り入れることにした。

質問 2 の結果より、人物調査の段階において、資料を適切に収集、選択、処理、活用するための指導を十分に行いたい。

質問 3 の結果より、「歴史上の人物」について深く追究し、お互いの調査結果を発表する過程を通して、深い調査や意見交換の大切さを体験させたい。

## 5. 指導目標

- (1) 国家や社会、文化の発展、人々の日常生活の向上のために尽力した歴史上の人物に対する生徒の興味や関心を育てる。
- (2) 歴史上の人物について、その人物の活動した時代的背景と関連させながら、その果たした役割や生き方を史実に基づいてとらえようとする態度を身につけさせる。
- (3) 歴史上の人物について、多面的・多角的にとらえ、公正に判断しようとする態度を身につけさせる。

## 6. 指導計画

単元名「歴史上の人物を見つめ直そう～いろいろな見方を大切に～」 8時間扱い

項目	学習内容	時配	留意点
探究する「歴史上の人物」の決定	<p>《学習課題》 「歴史上の人物」について、いろいろな見方をしてみよう。</p> <p>○徳川綱吉と「生類憐れみの令」について考える。</p> <p>○探究する「歴史上の人物」を決定する。</p>	1	<p><b>【価値の気づき】</b> 「歴史上の人物」について、いろいろな見方があることに気づかせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「生類憐れみの令」に対し、悪法という見方と正当な理由があったという見方があることを説明する。</li> <li>・班内で、それぞれが別々の人物を探究するようにさせる。</li> </ul>
「歴史上の人物」の調査①	<p>《学習課題》 班員が探究する「歴史上の人物」について振り返ってみよう。</p> <p>○「歴史上の人物」について、教科書から調べ直し、ワークシートにまとめる。</p>	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校で学んだことや、中学校で学んだことを思い起こさせる。 (小・中の連携)</li> </ul>

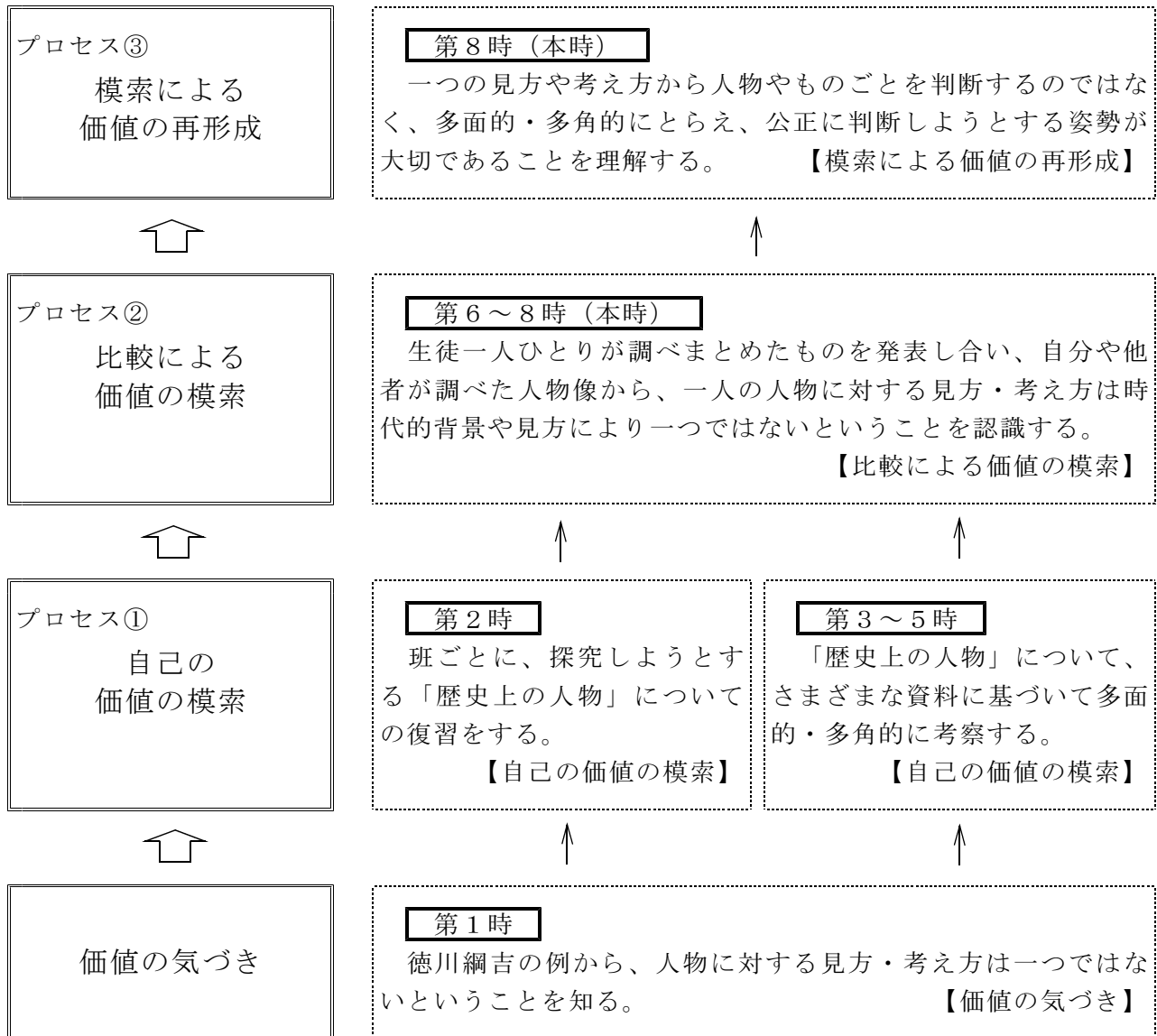
<p>「歴史上の人物」の調査②</p>	<p>《学習課題》 「歴史上の人物」について、さまざまな資料からより詳しく調べてみよう。</p> <p>○学校や地域の図書館の図書、インターネットなどを利用して調べる。</p> <p>○ワークシートに、調査結果をまとめる。</p>	<p>3</p>	<p><b>【自己の価値の模索】</b> 「歴史上の人物」について、さまざまな資料から多面的・多角的に考察させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>資料として、歴史小説などの作り話は使用しないよう注意する。</li> <li>その人物が活動した時代的背景と関連させながら、調べさせる。</li> <li>発表会を意識して、聞き手にわかりやすいようにまとめさせる。</li> </ul>
<p>班の代表者の選定</p>	<p>《学習課題》 「歴史上の人物」の発表会を行い、班の代表者を選ぼう。</p> <p>○一般的な史実と探究してわかった意外な史実を説明する。</p> <p>○班の代表者を選ぶ。</p>	<p>1</p>	<p><b>【比較による価値の模索】</b> 「歴史上の人物」の調査結果を発表し合い、どの人物にもさまざまな見方や考え方があつたことを認識させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表者には、聞き手の調べた史実を確認しながら、意外な史実を説明させる。</li> <li>班の代表者を選ぶにあたり、特に次の点に留意させる。 ①時代により評価が変わつた人物 ②新たな発見や驚きが大きかつた人物</li> </ul>
<p>学習発表会の準備</p>	<p>《学習課題》 学習発表会の準備をしよう。</p> <p>○発表会の役割分担を決める。</p> <p>○自分が聞こうとする人物の事前調査をする。</p>	<p>1</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>より良いプレゼンテーションの方法を考えさせる。</li> <li>発表のための資料は、カード等を使って簡潔にまとめさせる。</li> <li>疑問点を書き出させ、発表会時に質問させるようにする。</li> </ul>
<p>学習発表会</p>	<p>《本時の学習課題》 歴史上の人物を見つめ直そう。</p> <p>○発表会を行う。</p>	<p>1 (本時)</p>	<p><b>【比較による価値の模索】</b> 「歴史上の人物」に関する一般的な史実に加え、意外な史実を、活動した時代的背景との関連にふれながらとらえさせる。</p>

	○学習のまとめを行う。	<b>【模索による価値の再形成】</b> 「歴史上の人物」を多面的・多角的にとらえることができたかについて確認する。
--	-------------	---

## 7. 単元の構造

〈模索のプロセス〉

〈単元の構造〉



## 8. 本時の指導

### (1) 内容

「歴史上の人物に対する、いろいろな見方や考え方」

### (2) 目標

- ① 歴史上の人物について、その人物の活動した時代的背景と関連させながら、その果たした役割や生き方を史実に基づいて発表できる。
- ② 歴史上の人物について、一つの見方・考え方にしぼられるのではなく、多面的・多角的にとらえ、公正に判断することができる。

(3) 展開

( ●学習内容 ○一般的な留意点 ★研究テーマに即した留意点 )

時配	学習活動と内容	指導上の留意点
3	1. 発表会の方法や約束事を確認する。 ・ 6班の中から2班ずつ同時に発表 ・ 班の発表順と場所 ・ 発表の手順	○発表会の方法や約束事については、事前指導を行い、当日は確認程度とする。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">             歴史上の人物を見つめ直そう。           </div>		
30	2. 次の(1)～(4)の流れを1サイクルとして、2班ずつ同時に発表を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(1)準備タイム 2分</div> ・ 発表班は資料と発表の手順を確認する。 ・ 聞き手は、興味・関心のある人物の発表場所に移動する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(2)発表 4分</div> ①歴史上の人物について、聞き手が知っている事柄を発表してもらい、発表者はそれをカード等を使ってまとめる。 ●人物名 (例：徳川綱吉) ●人物が活躍した時代 (江戸時代) ●人物に関する一般的な史実 (寺院の建設、生類憐れみの令) ●当時の社会に与えた影響 (幕府財政の悪化が、人々を苦しめた) ②聞き手の発言に出てこなかった人物の意外な史実を、発表者が作成した資料を使ってわかりやすく説明する。 ●時代的背景 (戦国時代の風潮が残っていた) ●人物の意外な史実 (命を大切にすることを育てた、庶民の帯刀禁止を強化した) ●人物像と時代的背景との関連 (戦国時代の荒々しい風潮を一掃するために、人々に命を大切にさせた) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(3)質疑応答 2分</div> ・ 発表内容に関して、質疑や応答を行う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">(4)発表内容の記録 2分</div> ・ ホワイトボードにまとめられた発表内容を記録する。	○できるだけ、一つの班に聞き手が集中しないように配慮しておく。 ○発表班には、聞き手から人物に関する一般的な史実を聞き出し、その要点をカード等を使ってホワイトボードに簡潔にまとめるように助言しておく。 ★図書や百科事典ソフト、インターネット等から調べた人物の意外な史実を、活動した時代的背景との関連にふれながら、具体的に説明するように助言しておく。その際、一般的な史実と意外な史実を比較しやすくするために、色分けしてまとめさせる。 <div style="text-align: center;"><b>【比較による価値の模索】</b></div> ○発表中はなるべく記録をとらず、説明を聞くことに専念させる。 ○一般的な史実と意外な史実の違いに気づいていれば、質疑応答に時間をかけさせない。 ○意外な史実を中心にまとめるように助言する。

<p>17 3. 本単元の学習を振り返る。</p> <p>・この単元の学習を通して、以下の点について考え話し合う。</p> <p>①歴史上の人物に対するイメージを変えた発表は？</p> <p>②この学習を通して、気づいたことは？</p>	<p>★新たな発見や驚きが大きかった人物に着目させる。</p> <p style="text-align: center;"><b>【比較による価値の模索】</b></p> <p>★一つの見方や考え方から人物やものごとを判断するのではなく、多面的・多角的にとらえ、公正に判断しようとする姿勢が大切であることを確認する。</p> <p style="text-align: center;"><b>【模索による価値の再形成】</b></p>
--	---

(4) 評価

- ① 展開2. の「発表」の場面において、生徒の発言内容から、「歴史上の人物について、その人物の活動した時代的背景と関連させながら、その果たした役割や生き方を史実に基づいて具体的に発表できているか」を判断する。
- ② 展開2. の「発表」の場面と展開3. の場面において、生徒の発言内容から、「歴史上の人物について、一つの見方や考え方にしぼられるのではなく、多面的・多角的にとらえ、公正に判断しているか」を判断する。